

比較ポイント	説明	pure::variants	Excel
再利用手法		プロダクトライン開発	なし
可変点		すべて	パラメータ付け 項目選択
ブランチ管理		◎ 主要バージョン管理システムに対応	×
バージョン付け		◎ 主要バージョン管理システムに対応	△ 限定的
型付き依存関係 / リンク		◎	×
形式的依存関係ルール (requires, conflicts, ...)		◎	△ マクロまたは追加ソフトが必要
明示的可変点		◎	×
自動バリエーション生成		◎	△ マクロまたは追加ソフトが必要
自動化とワークフロー実行		◎	×
DOORS との連携		◎ IBMにより認証	×
MATLAB Simulink/Stateflow との連携		◎ Connections Program パートナー	×
Targetlink との連携		◎	×
AUTOSAR 3.x との連携		◎	×
Enterprise Architect との連携		◎	△ マクロまたは追加ソフトが必要
Subversion との連携		◎	×
JIRA との連携		◎	×
MS Office (Word, Excel) との連携		◎	×
Rhapsody との連携		◎ IBMにより認証	×
バージョン管理システムとの連携		◎ 主なバージョン管理システムの コンペアとマージ機能を提供	△ 変更履歴機能のみ。バージョン管理シ ステムとの連携なし。外部で変更された ファイルの差分抽出やマージなし。
データ保存		ファイルまたはデータベース、 あるいはその両方(複合動作可能)	ファイル
公開APIによる拡張性		◎	◎
トレーサビリティ		◎ 履歴を含むフル機能	×
ビルド設定の検証と生成		◎	△ マクロまたは追加ソフトが必要
カスタムコードの生成		◎	△ マクロまたは追加ソフトが必要
組み込みターゲット向けの設定最適化		◎	×
ルールベースによるバリエーション設定		◎ すべての統合ツールと対話的および 非対話的に可能	△ マクロまたは追加ソフトが必要
バリエーションの自動生成と自動検証		◎	×
導入に要する期間	短中期:数週間で効果が出て、数箇月で導入完了。 中長期:数箇月で効果が出て、数年で導入完了。	短中期	短中期
相対的な連携の労力とリスク		○ 即戦力設計、洗練された連携インター フェース、おもな作業はプロセスモデル・ データモデルの定義とテンプレートの調整 のみ。	△ バライアビリティサポートのための多 大な開発の労力、特に検証機能とコラボ 機能のサポート。
ユースケースへの適合性	ソフトウェア工学と関連アセット	◎	△
	要件とドキュメント	◎	△
	電子部品工学と関連アセット	○	△
	キャリアレーションデータ	○	△
	ハードウェア・機械工学と関連アセット	△	△
継続的な保守のための費用と労力		不特定顧客向け製品であり、標準の保守 費用で大半のケースに対応可能。	特定顧客ごとのカスタマイズの差が大き いので不明。
関心の分離	バライアビリティ(変動)モデルとバリエーション(変種)モデルを 分離することで、個々のバリエーションの進化の独立性を確保 する。	◎ バライアビリティモデルとバリエーションモ デルそれぞれ固有のライフサイクル。	×